

見せてほしい、
あなたのものづくり。

ものづくり

第10回 ものづくり日本大賞

応募期間

2024.8.1^木～10.15^火

応募はこちらのホームページから ▶

ものづくり日本大賞 🔍

<https://www.monodzukuri.meti.go.jp>



新時代のものづくりに 挑戦する人^{個人又はグループ}を募集します。

内閣総理大臣表彰「ものづくり日本大賞」は、日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきたものづくりを着実に継承し、新たな事業環境の変化にも柔軟に対応しながらさらに発展させていくため、ものづくりの第一線で活躍する各世代のうち、特に優秀と認められる方々を表彰する制度です。

ものづくり日本大賞は、以下①～④の4分野において、特に優れた成果をなした個人、グループ等を表彰します。

表彰の対象となる4つの分野のうち、「①産業・社会を支えるものづくり」及び「④ものづくりの将来を担う高度な技術・技能」のうち「③人材育成支援部門」について受賞候補者の募集を行います。応募のあった候補者の中から受賞者の選考を行い、表彰します。(※先述以外は既存の各種大臣表彰制度等の受賞者等の中から選考を行います)

産業・社会を支えるものづくり

- ① ①製造・生産プロセス部門 ②製品・技術開発部門
③伝統技術の応用部門
④データ活用による新価値創出部門

③ ものづくりを支える高度な技能

- ①ものづくりの現場を支える高度な技能部門

② 文化を支えるものづくり

④ ものづくりの将来を担う 高度な技術・技能

- ①一般部門(就業者) ②青少年部門(学生)
③人材育成支援部門

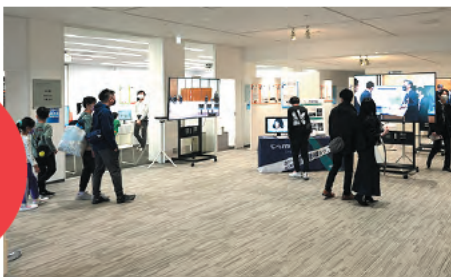
首相官邸での
内閣総理大臣賞
表彰式



都内ホテルでの
経済産業大臣賞
表彰式



ものづくり展の
実施



ものづくり日本大賞
冊子制作



革新性と
受賞ポイント
に迫る

第9回ものづくり日本大賞 受賞案件を紹介！

「ものづくり日本大賞」受賞は高い志のもとに地道な努力を続けてきたことの一つの証明です。毎回、熱きプロフェッショナルたちが表彰されています。「第9回ものづくり日本大賞」のいくつかの受賞案件を受賞理由とともに紹介します。

内閣総理
大臣賞

製品・
技術開発部門

製造業における部品調達のデジタル革命 「meivy」(メビー)

株式会社ミスミグループ本社

吉田 光伸氏、他3名



3DCADデータから、AIにより見積もりと納期を瞬時に回答。製造業における部品調達の時間短縮とデジタル化をもたらす革新的プラットフォーム。



受賞理由

- ① 機械部品の設計から調達までのプロセスや期間を劇的に変えるシステムを開発。
- ② 日本の強みである中小のものづくり産業のDX化、効率化に重要で必要不可欠なシステム。

内閣総理
大臣賞

製品・
技術開発部門

国産初の手術支援ロボット 「hinotori™ サージカルロボットシステム」の開発

株式会社メディカロイド、他1団体

北辻 博明氏、他6名



産業用ロボットの技術を結集し、医療ロボット市場へ新規参入。人間の腕のように自在に動く、国産初の遠隔手術支援ロボット。



受賞理由

- ① 米国製品の寡占状態の市場に参入を果たし、製品化した功績は大きく、意欲的な国産初の製品を開発。
- ② 遠隔操作による地方の外科医不足、技術継承など日本医療の課題解決への貢献も期待。

第9回ものづくり日本大賞 受賞案件



製造・生産
プロセス部門

地球も人も元気になれる、
品質・生産性に優れた革新アルミダイカスト工場

株式会社アイシン

竹之下 正志氏、他6名

ダイカスト工程を徹底して省人化・効率化。
製造プロセスをすべて見直し、課題解決に取り組んだ
アルミダイカスト工場。

受賞理由

- 1 長年の技術開発とその成果を有機的に組み合わせて、CO₂排出量の削減や生産向上、作業員の安全性確保を同時に達成。
- 2 工場全体の設計を見直し、未来の工場のロールモデルとして期待。



製品・
技術開発部門

国内民間初、自社開発し宇宙到達の
観測ロケットMOMO。大樹町の夢を乗せ宇宙利用を実業化

インターステラテクノロジズ株式会社

稲川 貴大氏、他4名

低価格で高頻度な宇宙輸送を実現。
国内民間初、宇宙到達の観測ロケットMOMO。

受賞理由

- 1 設計から製造・検証まで内製化することで、開発の迅速化、低コスト化を実現。
- 2 参入障壁の高い宇宙ビジネス市場において、日本の民間商業ロケットの先駆けとして健闘。



製品・
技術開発部門

世界最高性能の「緩まないねじ」と
その量産用転造金型の開発

株式会社ニッセー、他4団体

天野 秀一氏、他5名

緩み止め効果・作業性の両立を実現。
転造技術を活用し、ISO最高性能を実証した「緩まないねじ」。

受賞理由

- 1 大小2種類の異なるナットと巧みなねじ山構造により、高性能な緩み止め性能を実現。
- 2 量産用転造金型のライセンス事業を展開し、緩まないねじの幅広い普及に貢献。



第9回ものづくり日本大賞 受賞案件



伝統技術の
応用部門

世界初！醤油発酵技術をカカオに応用
「チョコレート第5次革命カカオ醬」

湯浅醤油有限公司

新古 敏朗氏、他1名

醤油発酵技術をカカオに応用。
チョコレートと醤油の両方の風味を楽しめる世界初の調味料。

受賞理由

- 1 伝統の発酵技術とカカオのコラボレーションという「伝統と革新」。
- 2 醤油とカカオを融合させる斬新なアイデアで、日本食文化の海外への普及に貢献。



「Connected Industries
一優れた連携」部門※

令和の台所の新・必需品化を目指す自動調理鍋
ヘルシオホットクックの開発

※第10回は「データ活用による新価値創出部門」に名称変更

シャープ株式会社

中村 達彦氏、他5名

「無水調理」「自動調理」「予約調理」機能を搭載。誰でも手間なく簡単においしく調理ができる自動調理鍋。

受賞理由

- 1 日本の誇る和食の調理技術を再現しつつ、調理家事の自動化・省力化を実現。
- 2 家電分野は成熟産業であるが、無線LAN接続機能搭載によるAIoT機器として新しい家電製品や家電事業の展開を期待。



人材育成
支援部門

金属熱処理における『技術・技能』伝承のための
階層別・教育訓練体系の構築

東部金属熱処理工業組合

ものづくり産業の基盤である金属熱処理業界を支える30年以上継続する独自の人材育成プログラム。

受賞理由

- 1 日本の大学から「金属工学科」が消滅する中、金属熱処理の技術・技能の伝承という課題の解決に資する取組。
- 2 組合独自のテキストや講師、プログラムにより、次世代技術者の育成に向けた階層別の高度な教育を展開。



1. ものづくり日本大賞の概要

ものづくり日本大賞は、
以下①～④の4分野において、特に優れた成果をなした個人、グループ等を表彰します。

① 産業・社会を支えるものづくり

①製造・生産プロセス部門 ②製品・技術開発部門
③伝統技術の応用部門 ④データ利活用による新価値創出部門

③ ものづくりを支える高度な技能

①ものづくりの現場を支える高度な技能部門

② 文化を支えるものづくり

④ ものづくりの将来を担う高度な技術・技能

①一般部門(就業者) ②青少年部門(学生) ③人材育成支援部門

先述の4つの分野のうち、①①～④、④③の2分野について受賞候補者を募集し、応募のあった候補者の中から受賞者の選考を行い、表彰します。募集の対象となる業種等については、「2. 表彰部門と受賞候補者の募集」をご参照ください。なお、その他の業種や分野については、既存の各種大臣表彰制度等の受賞者の中から選考を行うため、本応募要領にて募集を行うものではありません。

2. 表彰部門と受賞候補者の募集

募集の対象となる業種

募集の対象となる業種は、日本標準産業分類における「E 製造業」及び「C 鉱業」に含まれる業種並びに「G 情報通信業：ソフトウェア業」とします。

(1) 候補者となる個人及びグループは、原則として現役の勤労者(製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や、伝統的・文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など、ものづくりの第一線で活躍する各世代)とし、グループを構成する人数は、原則として7名以内とします。

(2) 応募は候補者本人が行うのではなく、候補者を推薦する方(推薦者)が2名の賛同者を得て、申請してください。候補者本人による申請は認められません。

【参考】企業の経営者が自社の社員を推薦する申請や、またその逆も可能です。また、法人格を有する団体(地方自治体、業界団体、経済団体、金融機関、企業等)も推薦者になることができます。この場合、2名の賛同者を得ることは必要ありません。但し、企業が当該企業の代表者を推薦することは認められません(企業が当該企業の個人又はグループを推薦することは可能です)。

表彰部門と受賞者の人数

以下の①の①②③④の部門については、それぞれ受賞者の選定を行います。受賞者は個人又はグループ(最大7名)どちらも対象となります。④③人材育成支援部門については企業、特定非営利活動法人(以下、NPO)等から受賞者の選定を行います。

①産業・社会を支えるものづくり

① 製造・生産プロセス部門

製造・生産工程における画期的なシステムや手法の開発・導入によって、生産の抜本的効率化などの生産革命を実現し、サービス・ソリューション提供等も含めた幅広い取組も交えながら新たな付加価値を創出した個人又はグループを表彰します。

◆内閣総理大臣賞 ◆経済産業大臣賞 ◆特別賞* ◆優秀賞

③ 伝統技術の応用部門

地域に根ざした文化的な技術や、熟練人材により受け継がれてきた伝統的な技術の工夫や応用によって、革新的・独創的な製品若しくは部品や素材、生産プロセス等の開発・実用化を実現し、サービス・ソリューション提供等も含めた幅広い取組も交えながら新たな付加価値を創出した個人又はグループを表彰します。

◆内閣総理大臣賞 ◆経済産業大臣賞 ◆特別賞* ◆優秀賞

② 製品・技術開発部門

優れて画期的な製品若しくは部品や素材等の開発・実用化を実現し、サービス・ソリューション提供等も含めた幅広い取組も交えながら新たな付加価値を創出した個人又はグループを表彰します。

◆内閣総理大臣賞 ◆経済産業大臣賞 ◆特別賞* ◆優秀賞

④ データ利活用による新価値創出部門

データ利活用等を通じて機械、技術、人など様々なものをつなげることで、新たな付加価値の創出や課題解決を進めた個人又はグループを表彰します。

◆経済産業大臣賞 ◆特別賞* ◆優秀賞

④ものづくりの将来を担う高度な技術・技能

③人材育成支援部門

第4次産業革命に対応するデジタル人材育成をはじめとした日本の将来のものづくり人材育成支援において、その活動が目覚ましいと認められる企業、NPO等を表彰します。

◆経済産業大臣賞 ◆特別賞* ◆優秀賞

※企業、NPO等は、法人格を有する団体(学校を除く)とします。※デジタル化対応の人材育成については、自社内の人材育成支援も応募可能です。ただし、自社内を越えて、学生・社会人・他社の人材など広域に人材育成支援を行う企業・NPO等を特に評価します。

* 特別賞は、惜しくも内閣総理大臣賞、経済産業大臣賞を逃した方のうち、特に表彰すべき方がいる場合に限り、設けることがあります。

詳しくは、こちらのホームページをご覧ください
<https://www.monodzukuri.meti.go.jp/>



3. 審査・選定方法

有識者で構成される選考分科会と選考有識者会議を設置し、
 第1次審査と第2次審査による選考を経て、受賞者の選定を行います。

第1次審査

選考分科会を全国9ブロック(北海道、東北、関東、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄)に設置し、応募があった担当都道府県内の候補者について審査し、第1次審査通過者を選定します。第1次審査では、応募書類による審査の他、必要に応じてヒアリングや現地調査による審査も実施します。

第2次審査

第1次審査通過者について、選考有識者会議が第2次審査を行い、内閣総理大臣賞、経済産業大臣賞、特別賞、優秀賞について受賞者を選定します。第2次審査では応募書類による審査の他、必要に応じて現地調査及びプレゼンテーション等による審査を実施します。

※プレゼンテーション等の際の会場までの交通費等は出席者にてご負担いただきます。

審査の基準

審査は「①①製造・生産プロセス部門」「①②製品・技術開発部門」「①③伝統技術の応用部門」「①④データ活用による新価値創出部門」「④③人材育成支援部門」の5部門それぞれの受賞者を選定するために行います。各部門の審査・選考は、次の評価項目を総合的に勘案して行います。

①産業・社会を支えるものづくり

評価項目	評価内容(例)
社会的 a 課題への 対応	技術的革新性だけでなく、モノに留まらないサービス・ソリューション提供や、人材不足をはじめとする社会的課題の解決を通じて新たな付加価値を創出している、もしくはその見込みがある取組を評価
b 革新性	新規性、独創性、新規市場の開拓可能性や、克服技術の難易度、ボトルネック解消の困難性、性能、品質面の優位性・信頼性、効率性、生産性、合理性、能率向上への寄与の面から評価
c 波及効果	経営貢献度(売上・収益、コスト削減)、市場シェア、新規市場への影響、他事業への転用・応用・将来性、普及可能性、既存システムへの影響の面から評価

④ものづくりの将来を担う高度な技術・技能 (③人材育成支援部門)

評価項目	評価内容(例)
社会的 a 課題への 対応	社会環境の変化を踏まえ、モノに留まらないサービス・ソリューション全体を考えられる人材の育成を通じて、社会的課題を解決している、もしくはその見込みがある取組を評価
b 革新性	新規性、独創性、類似する取組の有無、将来を担う人材がものづくりに対して興味を抱くような創意工夫、学校における学習科目との整合性、地域との関係機関との効果的な連携の面から評価
c 波及効果	自社に留まらず社会・地域で幅広く活躍する人材育成支援、取組の継続性、内容や参加人数の拡大可能性の面から評価

応募方法

応募に当たっては、所定の応募書類を作成していただく必要があります。

応募書類は第10回ものづくり日本大賞応募専用のホームページからダウンロードしてください。
応募書類の送付先もホームページをご覧ください。

応募用紙のダウンロードはこちらから

<https://www.monodzukuri.meti.go.jp/>

ものづくり日本大賞



応募期間

2024年8月1日(木)～10月15日(火)

※期日までに必着

■ 応募に関する全般的なご質問は下記の「ものづくり日本大賞事務局」までお問い合わせください。

[お問い合わせ先] ものづくり日本大賞事務局 ✉ info@monodzukuri.meti.go.jp

☎ 03-3473-7873 平日11:00～12:00 / 13:00～17:00(土・日・祝日を除く)

ものづくり日本大賞 各ブロック事務局一覧

ブロック	担当都道府県	お問い合わせ先
北海道	北海道	北海道経済産業局 地域経済部 製造・情報産業課 ☎ 011-709-1784 ✉ bzl-hokkaido-seizojocho@meti.go.jp
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	東北経済産業局 地域経済部 製造産業課 ☎ 022-221-4903 ✉ bzl-thk-seizo@meti.go.jp
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡	関東経済産業局 産業部 製造産業課 ☎ 048-600-0313 ✉ bzl-seizou-sangyou@meti.go.jp
中部	愛知、岐阜、三重、富山、石川	中部経済産業局 産業部 製造産業課 ☎ 052-951-2724 ✉ bzl-chb-seizo@meti.go.jp
近畿	福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	近畿経済産業局 産業部 製造産業課 ☎ 06-6966-6022 ✉ bzl-kin-seizou@meti.go.jp
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	中国経済産業局 地域経済部 製造産業課 ☎ 082-224-5630 ✉ bzl-monozukuri@meti.go.jp
四国	徳島、香川、愛媛、高知	四国経済産業局 地域経済部 製造産業・情報政策課 ☎ 087-811-8520 ✉ bzl-sik-seizojocho@meti.go.jp
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	九州経済産業局 地域経済部 製造産業課 ☎ 092-482-5442 ✉ bzl-kyushu-monodukuri@meti.go.jp
沖縄	沖縄	沖縄総合事務局 経済産業部 地域経済課 ☎ 098-866-1730 ✉ bzl-tikei-sline-oki@meti.go.jp

【お問い合わせについての注意】

応募書類提出後の確認や修正に関するお問い合わせにはお答えできませんので、十分にご確認いただいた上でご提出ください。
受賞者決定前の候補者に関する内容や審査状況に関するお問い合わせには一切お答えできませんのでご了承ください。

【個人情報の取り扱いについて】

ご応募いただいた個人情報及びその他の情報は、第10回ものづくり日本大賞に係る審査及び表彰の目的に使用する他、集計による統計資料の作成や、今後のものづくり日本大賞関連事業の推進、事務局からのお問い合わせにのみ使用いたします。